

構想の実現状況等（概要） ※得られたアウトカムを含む構想の実現の観点から記載すること【1 ページ】

【Ⅰ. 事業全体の取組について】



グローバルリベラルアーツ×リーダーシップ教育×自己変革力～世界で際立つ大学への改革～

3つの改革で掲げた各種施策を、10年間を通じて確実に実行したことにより
大学の国際化通用性を高め、本事業で目指す世界で際立つ大学へと成長

「カリキュラム」の改革

中長期アウトカム

自律的・主体的に学び続ける力を育成するカリキュラム

●リーダーシップ教育の全学展開

予測困難な時代において複雑な課題を解決するため、権限や役職にとらわれずメンバー全員が強みを発揮し成長しながらチームの目標達成に向けて貢献する。そのための能力を『新しいリーダーシップ』と位置づけ、グローバル教養副専攻の対象科目やGLAPの必修科目として展開。



GLAP リーダーシップ科目の様子

●Global Liberal Arts Program (GLAP) を基礎とした英語コースの発展

リベラルアーツを重視した少人数の英語コース。GLAPの取組みを基礎として、法学部、異文化コミュニケーション学部等の学部レベルでの英語コースの展開が加速。

●国際連携大学院プログラムの拡大

経営学研究科及び社会デザイン研究科が参画。インドネシア政府高等人材開発事業（PHRDP）やJICA奨学金制度等を活用し、インドネシアをはじめ、ベトナム、フィリピン、ネパール、バングラデシュ、サモア、キルギス等から2023年度までに総計128名の留学生を受け入れ。



国際連携大学院プログラム修了式の様子

「学生の意識」の改革

中長期アウトカム

異なる背景を持つ他者と協働しながら、課題解決力を向上

●多彩な海外プログラムの展開と事前事後学修による質の確保の重視

各国協定校（2024年5月時点255校）への留学、CUAC（世界聖公会大学連合会）と連携しフィリピン・トリニティ大学と協働する立教サービスラーニング、世界の国連機関で活動する国連ユースボランティアなど、多彩なプログラムを展開。渡航前後の研修の充実を通じて、質の確保も重視。



国連ユースボランティア

●学修成果ルーブリックによる効果の測定・把握

GLAP・グローバル教養副専攻プログラムにおいて「グローバル基幹力」ルーブリックに基づき①思考力（考察、論理的表現）、②変革力（課題発見・創造性）、③共感・協働力（多文化理解、リーダーシップ コミュニケーション）に関する継続的な履修者の自己評価を実施し、学びの定着に関する定性的な効果を把握

「ガバナンス」の改革

中長期アウトカム

多様な学生、教職員、社会等と協働できる組織力と自己変革力

●『立教未来構想』の策定と推進

150周年事業の一環として、2024年度に『立教未来構想』を策定。リベラルアーツと国際化の重要性を再確認。「Rikkyo Global 24」以降、大学の主要事業に国際化を位置づけ推進力を維持。

●国際化推進機構による着実な事業展開とスピード感を持った施策の実現

国際化推進機構を設置し、国際化推進担当副総長が同機構長を担う。そのリーダーシップにより、入試改革、シラバスの英語化、RSP事業（PEACE・NEXUSプログラム）の開始など、迅速な改革を実現。

【Ⅱ. 事業期間での大学の成長（アウトカムとの繋がり）

⚙️ 「カリキュラム」「学生の意識」「ガバナンス」の改革に一体的に取り組み、各改革を有機的に連動させることで効果を最大化

⚙️ 本学が伝統的に重視してきたリベラルアーツ教育の考え方を現代の複雑化した世界において展開するために、“国際化”は不可欠な要素であることを改めて全学で確認し、これからも国際性の向上を求めて自己変革を続ける大学へ

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

【Ⅰ. 事業全般について】

グッドプラクティス① 【学部レベル】

Global Liberal Arts Program(GLAP)

- ・ リベラルアーツを重視した少人数の英語コース
- ・ 海外リベラルアーツ大学との連携による教育内容の高度化と国際通用性の向上

ソウル大学校、北京大学及びシンガポール国立大学と連携した「リベラルアーツ教育」を共同テーマとした大学間国際コンソーシアム「The Asian Consortium for Excellence in Liberal Arts and Interdisciplinary Education (The ACE)」へと発展



ACE サマーインテンシブの様子

グッドプラクティス② 【学部レベル】

Rikkyo Study Project(PEACE・NEXUS)

- ・ 英語による授業のみで学位取得を目指す学生のための PEACE プログラム
- ・ 入学後に日本語能力の向上を図る NEXUS プログラム
- ・ IB、Aレベル、SAT等の国際的な標準を用いた入試を導入し、海外の高校から直接進学

新たな入試、カリキュラム、日本への定着支援としての寮・奨学金・チューターなど、多くの試みを通じて、より多様な留学生を獲得

グッドプラクティス③ 【学部レベル】

入試における英語外部試験の全面導入

- ・ 4技能を測定する英語外部試験を学部入試に全面導入
- ・ 英語カリキュラム改革と連動

学生の語学力が相対的に向上し、海外派遣プログラム参加者数増加にも寄与

グッドプラクティス④ 【大学院レベル】

国際連携大学院プログラム（リンケージプログラム）

- ・ 経営学研究科及び社会デザイン研究科の複数研究科が乗り入れる大学院における枠組みを構築
- ・ 英語による学修とその専門性（公共経営学、公共・社会デザイン学）によりアジア・アフリカ地域からの奨学生を受け入れ

複数研究科連携による大学院の国際化の枠組みと、本学の専門性を活かした知的社会貢献を両立

グッドプラクティス⑤ 【全校レベル】

陸前高田グローバルキャンパスの活用

- ・ 2017年4月、岩手大学と連携し、岩手県陸前高田市に「陸前高田グローバルキャンパス」を開設
- ・ 震災復興を課題テーマとする海外大学と連携したPBLプログラム「陸前高田プロジェクト（本学学生とスタンフォード大学、香港大学及びシンガポール国立大学の学生が参加）を毎年実施

立教大学と同地域の息の長い連携活動を通じ、東日本大震災の被災地の現状と復興における課題を世界中の若者と共に考える機会に



【Ⅱ. コロナ禍への対応について】

- ・ オンラインによる国際交流イベントの積極的な展開により、留学・国際交流への意欲関心を維持
- ・ 協定校との密接な連携による派遣・受入学生への柔軟な支援とオンライン対応
- ・ 入国制限等の情報収集を綿密に行うことで、いち早く派遣を再開
- ・ コロナ禍をきっかけに構築したオンライン授業の仕組みをベースに、コロナ後も“ACEプログラム”、“国際化促進フォーラム”等へ展開